

宮津市水道使用料金のあり方について ～「宮津市水道使用料金等審議会」報告～

1 目的(諮問理由)

- 令和元年8月設置の「宮津市水道使用料金等審議会」の答申を踏まえ、令和2年10月に料金改定を実施するとともに経費削減等に努めたことにより、料金改定年度から令和5年度まで黒字で推移することができた。
- 給水人口の減少や物価高騰等の社会情勢の変化が続くとともに、施設の耐震化や老朽化施設等の更新需要への対応など、現状においてもなお、非常に厳しい状況にある。
- また、当時の答申において「大きく変化する社会経済情勢等に鑑み、健全な事業経営に資するよう、適時経営状況の分析を行い、概ね5年ごとに水道使用料金の見直しに係る審議を行うことを望む」との付帯意見もいただいた。
- 今後も水道事業の健全な経営を図り「安全でおいしい水をいつまでも」安定的に供給するため、水道使用料金等のあり方について、「宮津市水道使用料金等審議会」を設置し諮問するもの。

2 経過

(1) 「宮津市水道使用料金等審議会」の開催

- 第1回 令和6年10月30日
 - ・諮問
 - ・水道事業の現況について
- 第2回 令和6年11月26日
 - ・今後の収支見通しについて
 - ・今後の収支見通しに基づく使用料金のあり方について
 - ・答申(案)について

(2) 事務局(市)からの主な説明内容

- 現在の水道事業の現況(これまでの取り組み及び宮津市水道事業ビジョンと決算の比較)
- 使用料金のあり方について(今後の収支見通し及び平均改定率8～10%のシミュレーション)

(3) 審議会での主な意見

- 地震等が起きている中、宮津のおいしい水を今後も安定的に供給するため、費用がかかっても、しっかり強靱化する必要がある。
- 料金改定は5年間の短期スパンで考えるが、施設の更新等、超長期的のスパンも視野に入れて検討する必要がある。
- 当時(令和元年)の審議会において、令和7年度に28%の改定も提示していたうえ、今後も老朽化や施設の改修、物価高騰等もある中、10%以上の改定も検討する必要があるのではないかと。

3 答申

- 審議の内容を踏まえ、12月20日に答申(別紙)

4 今後の予定

- 令和7年3月定例会において、条例改正の上程を予定

令和6年12月20日

宮津市上下水道事業

宮津市長 城崎 雅文 様

宮津市水道使用料金等審議会

会長 山崎 慎



水道使用料金等のあり方について(答申)

令和6年10月30日付けで当審議会に諮問のあった水道使用料金等のあり方について、慎重に審議した結果、下記のとおり意見を集約しましたので答申します。

記

水道は、市民生活や経済活動を支える重要なライフラインであり、安全でおいしい水の永続的な供給が強く望まれる。

しかし、給水人口の減少により給水収益の減収が続くとともに、施設の耐震化や老朽化等への対応など、水道施設の計画的な更新も必要なことから、今後も経営環境は厳しさを増していくものと見込まれる。

このため、水道事業が市の責任において永続的に運営されるためにも、「宮津市水道事業ビジョン」に基づき、各種施策を着実に実行されることが必要不可欠と考える。

以上のことから、当審議会としては、宮津市水道事業の経営基盤の強化を図るため、水道使用料金等のあり方について、次のとおり答申する。

1. 経営基盤の強化について

- 水道事業は、独立採算を基本とする公営企業であることから、より一層の経費節減等に努めるとともに、業務の合理化と効率化を積極的に推進すること。
- 市民への水道事業の理解が深まるよう、水道事業の経営等に関する情報について、積極的な開示に努めること。

2. 水道使用料金の見直しについて

現在の水道事業の経営状況は、令和2年度の料金改定及び経費削減等により黒字で推移しているものの、今後、有収水量の減少や水道施設の更新対応、また、物価高騰等により、近い将来には赤字が見込まれることから、健全で持続的な事業運営ができるよう料金設定されたい。

(1) 水道使用料金の設定

- 単年度の収益的収支の黒字化を図るなど、健全な経営が維持できる使用料金（改定率10%程度）とすること。

(2) 水道使用料金の算定期間

- 令和7年度から令和11年度までの5年間とすること。

(3) 水道使用料金の改定時期

- 料金改定の時期については、必要性や目的並びに改定内容など様々な情報について、使用者へ十分な周知を行った上で施行すること。

3. その他の付帯意見

(1) 水道事業経営の審議

- 大きく変化する社会経済情勢等に鑑み、健全な事業経営に資するよう、適時経営状況の分析を行い、今後も概ね5年ごとに水道使用料金の見直しに係る審議を行われたい。